

期間 26年 6月3日[火]～8月5日[火](全10回)

応募締切 5月20日[火]

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階(33ページ地図参照)

申込問合せ先 九州国際大学地域連携センター(担当:今井・片山)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時間 18:30～20:30

定員 30名

受講料 8,000円

### コース概要

実施機関:九州国際大学地域連携センター

わが国は太平洋戦争敗戦(1945年)後、奇跡的なほど迅速な復興、長期の高度成長を謳歌しましたが、バブル経済崩壊(1991年)後は20年以上低迷が続いています。2012年末からの安倍晋三政権による脱デフレ、日本経済再生の試み(アベノミクス)もいまだ道半ばです。

戦後日本の復興、成長を各産業の基礎素材である鉄鋼の生産によって支えてきたのが八幡製鐵所です。その栄枯盛衰はわが国の波乱万丈の戦後史と不可分につながっています。

北九州市発展の原動力となってきた「母なる」八幡製鐵所と戦後日本経済の歩みについて、具体的な事例、証言、映像・画像資料を交えながら振り返りましょう。

月 日	テーマ・内容	担当講師
6月3日 (火)	<b>終戦直後、八幡集中生産→石炭、鉄鋼“傾斜生産”</b> 戦後復興に向け、いち早く八幡製鐵所に全国の鉄鋼生産を集中させた旧日本製鐵の決断と日本政府の「傾斜生産方式」の先見の明について学びます。	九州国際大学 特任教授 江本 伸哉
6月10日 (火)	<b>朝鮮特需で八幡生産急増→戦後復興、設備近代化</b> 朝鮮特需が八幡を潤し、造船、自動車など全国主要産業の復興を速め、先進国・米国で学んだ技術者たちが近代化を引っ張った心意気を学びます。	
6月17日 (火)	<b>“七色の煙”と“死の海”→高度成長と公害発生</b> 煤煙を繁栄の証と称えた旧八幡市歌。日本の高度成長(1955～73年)をリードした八幡全盛時代とその副作用として発生した深刻な公害を学びます。	
6月24日 (火)	<b>戸畑に製鐵所本体移転→八幡は公害解決するも衰退</b> 戸畑沖を埋め立て、高効率の銑鋼一貫製鐵所を建設したことで八幡の公害を解決した半面、八幡地区の衰退も決定的になった歴史の皮肉を学びます。	
7月1日 (火)	<b>首都圏一極集中→八幡から君津へ“民族大移動”</b> 首都圏一極集中を受け、旧八幡製鐵も君津(千葉)に基幹製鐵所を建設。「母なる八幡」から君津へ社員・家族が大挙移動していった経緯を学びます。	
7月8日 (火)	<b>八幡・富士“世紀の合併”→規模の利益が独占禁止か</b> 旧八幡・富士合併は産業界の大型合併の先駆けとなり、規模の利益追求と独占政策が厳しく対立、八幡製鐵所の地位低下も進んだことを学びます。	
7月15日 (火)	<b>シームレス進出→石油危機、高度成長→安定成長</b> 「世界一の鉄鋼メーカー」という覇者の驕りから八幡でシームレス鋼管生産開始。直後の石油危機、省エネ定着を見逃せなかった教訓を学びます。	
7月22日 (火)	<b>“プラザ合意”→八幡高炉1本に、スペースワールド誕生</b> 「プラザ合意」が深刻な円高不況をもたらし、八幡の高炉が1本になり、その遊休地にスペースワールドを誘致した歴史的転換点について学びます。	
7月29日 (火)	<b>シームレス撤退、スペースワールド・スピナ売却→“選択と集中”、“本業回帰”</b> 八幡のシームレスは赤字のまま撤退、スペースワールドは加森観光、スピナは西鉄に売却。産業界が「選択と集中」、「本業回帰」に転換した理由を学びます。	
8月5日 (火)	<b>新日鐵・住金合併、八幡・住金小倉統合→韓国の台頭</b> 12年10月の新日鐵住金誕生、14年4月から住金小倉を八幡製鐵所に統合。背景に規模の経済、高収益・韓国ポスコとの戦いがあることを学びます。	